

## 超小型衛星 × GIS ワークショップ 報告

昨年度、私ども超小型衛星センターは、日本の各地域を回ってこれから作りあげる「超小型衛星」の世界を中心に、衛星や衛星を含むシステムをどのように活用していくか、どのようにすれば民間での商用、公共利用が進むかといった課題について関係の皆様のお話を伺ったり、議論をしたりしてまいりました。

今年度は、今までいろいろと教えていただいたこと、見せていただいたもの、聞いてきたことをどのような形で「超小型衛星」の世界に反映していくつもりなのか、具体的な姿を見ていただく機会としてワークショップを実施してまいりたいと考えております。

今年度、初回のテーマは「GIS」。去る平成 23 年 7 月 27 日に、下記の通り、超小型衛星 × GIS ワークショップを開催致しました。



ワークショップの会場は東急二子玉川駅から徒歩から近い二子玉川ライズ・オフィス内「CATALYST BA スタジオ」という会場で行われました。二子玉川ライズは屋内における位置計測システムを実験的に導入している等、GIS にゆかりのある場所で、今回のワークショップの会場に非常にマッチした会場です。明るい雰囲気のある素敵な場所で、一同楽しく準備を行うことができました。



シンポジウムは午後 13 時から始まりましたが、開始する頃には会場のテーブルは一杯になり、約 60 人もの方々にご参加頂きました。

最初はモデレーターの神武先生（慶應義塾大学）より本シンポジウムの趣旨と目的に関するご説明が行われました。本シンポジウムでは「超小型衛星」と「GIS」のそれぞれの特徴を参加者の方に知って頂くとともに、それらの特徴を踏まえて新しいアプリケーションをブレインストーミングすることを目指します。神武先生は現在、位置情報に関する研究を行っていらっしゃいますが、かつては宇宙機関でお仕事をされていたこともあり、本ワークショップでキーワードとなる「超小型衛星」と「GIS」の両方に精通していらっしゃる、まさにオペレーターにうって



つけの方でいらっしゃいます。



続いて、中須賀先生（超小型衛星センター代表）より、「超小型衛星の現状と課題」に関してご講演が行われました。

超小型衛星にどのような特徴があり、それが今後の社会においてどのように貢献出来るのか、超小型衛星の持つ可能性についてご説明いただきました。



続いての講演は、齋藤氏（茨城大学、(株)福山コンサルタントリスクマネジメント）による「震災を振り返って～新たな防災システムとは～」に関する講演が行われました。齋藤様は東日本大震災でも大きな被害を受けた茨城県にて防災システムの研究を行っていらっしゃり、今回の震災における現場の状況をお話しして下さるとともに、今後必要となる防災システムに関してご説明頂

きました。

続く、田中氏（超小型衛星センター）の講演では、超小型衛星センターにおいて取り組んでいる災害情報の記録に関する取り組みである「東日本大震災の記憶 WEB サイト」に関する説明が行われました。東日本大震災の記憶 WEB サイトは、東京大学生産研の腰原教授とともに、被災地の建築物の分析を行う上で構築されたサイトです。サイトを構築した経験から、超小型衛星のデータを活用する上で GIS とどのように連携するのが良いか、両者の連携の方向性の提案をお話頂きました。



続いては、古橋氏（オープンストリートマップ）により、**Open Street Map Japan** のプロジェクトに関してご講演頂きました。**Open Street Map Japan** では、ウェブを通じた参加型の地図作りが行われ、地図を無料で活用できる体制を構築されております。今回の東日本大震災においては、培った技術をもとに、被災者情報の提供や被災後地域の地図作りに取り組まれており、その経緯や状況に関してご講演頂きました。



ここからは、「超小型衛星×GIS で起こすサービス・イノベーション」に関するブレインス

トーニング型のワークショップが行われました。



モデレーターを行って下さったのは中島氏（慶應義塾大学）で、ワークショップにブレインストーミングを導入して下さいました。

本セッションがシンポジウムでも一番の山場であり、超小型衛星の特徴と GIS の特徴を活かした新しいサービスが生まれ出せないか、会場でも非常に熱気の入った議論が行われました。

本セッションの導入として、田中氏（超小型衛星センター）による超小型衛星の特徴の紹介、および、鎌形氏（国際航業）による GIS の特徴の紹介が行われました。この両者の特徴をキーワードとして用いて、両者を用いたサービスに関するブレインストーミングを行いました。



ブレインストーミングの手法としては、サービスの鍵となる「Who」「Where」「When」「Where」についてポストイットを用いて候補を挙げていき、それらをつなぎ合わせる事で新しいサービスシナリオを見つけていく、というものでした。

会場では7つのチームに分かれてのブレインストーミングが行われ、それぞれのチームでユニークなシナリオアイデアが沢山生まれました。ビジネスの可能性が見込めるアイデア、独創的なアイデア、サービスとしての継続性が見込まれるアイデア、様々な観点から非常に有用なアイデアが生まれました。



多人数による参加型ブレインストーミングという手法を用いる事で、他の人によって提案される普段自分が思いもよらないような考えに対して自分のアイデアを付加していくことが出来、普段の思考とはまた違った新しいアイデアを生み出すことが可能になります。今回ワークショップでは、参加者においても、様々な業種からご参加を頂きました。普段全く別の思考をしているメンバーが集まり、話合うことで非常に刺激的な話し合いを行うことが出来ました。

また、超小型衛星の特徴と GIS の特徴を発想の起点にすることで、両方の業界にとって有意義な議論を行うことが出来ます。

各チームで考えだされたアイデアに関しては、お互い発表しあうことで共有しました。各チームごとに色合いが異なり、お互い発表しあうことでもさらに新しい発見、発想のキッカケを得る事が出来たと思います。



本ワークショップで生み出されたアイデアの一つ一つは参加者で共有され、今後の活動の布石になることが期待されます。

超小型衛星×GIS ワークショップは今後の新しい活動のキッカケ、つながりの礎となる非常に良い機会となりました。ご参加、御協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。